学生プロジェクトとしての科学技術啓発活動のカリキュラム化の是非に関する学生の意見調査

Survey results of students' opinions on incorporation of students' project activities into official educational curriculum

長谷川 誠（千歳科学技術大学）

Makoto Hasegawa (Chitose Institute of Science and Technology)

***E-mail: hasegawa@photon.chitose.ac.jp**

１．はじめに

地域社会にて科学技術に関する啓発活動を実施している正課外の学生プロジェクトチーム「理科工房」は，平成 29 年度(2017 年度)も積極的に活動を展開している。今年度内の活動件数は 1 月半ばの段階で 90 件に達しており、年度末までに 100 件を越える見込みとなっている。この活動が実質的な PBL 活動として機能し, 学生教育の観点で有効に機能し得ることは，これまでに報告している [1-2]。

今回は，この活動のカリキュラム化（この活動を通した単位付与）の是非に関して，活動に参画している学生メンバがどのように考えているかを, 簡単なアンケートを通して調査した。

２．アンケート内容と回答結果

平成 29 年(2017 年)12 月に実施した参加学生対象のアンケートに，「このような活動を正式な授業項目として認定して単位を獲得できるようにした方が良いと思いますか」という設問を含めた。回答者は学部 1～3 年生の計 43 名である。図 1 に回答結果を示す。

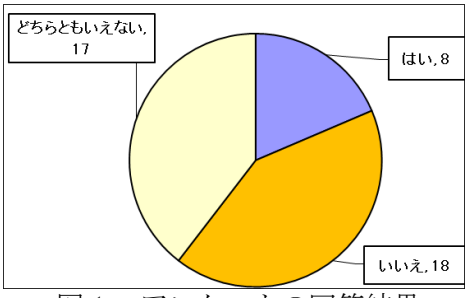

図 1　アンケートの回答結果

単位付与に肯定的な回答者は 43 名中 8 名，否定的な回答者が 18 名，どちらともいえないが 17 名であった。それぞれの回答の具体的な理由としては, 以下のようなものが挙げられた。

[肯定的な回答の理由]

・講義では得ることができない主体性，コミュニケーション能力が身に付く

・企画力、話す力を伸ばすために有用である

[否定的な回答の理由]

・全体の士気の低下につながりそう

・単位目的で，お仕事感覚でやるのは違う

・単位目的で活動にいてほしくない

・単位が獲得できるから活動するのではなく，自分で活動したいから活動すべきである

[どちらともいえないという回答の理由]

・単位がもらえるなら欲しいが，それ目的に参加する人が増えるのは好ましくない

・単位目的の者がいると温度差ができそう

参加学生自身が, 本活動から得られる効果は認めているものの, メンバ間に温度差が生じる可能性を冷静に判断していることが分かる。

３．おわりに

こうした活動を正課内で行う場合も多いが，参加学生の主体性、自発性が真に発揮されるか等の観点から, その是非を検討する必要がある。

参考文献：(1)長谷川，応用物理教育，39(1)，pp.31-34 (2015-7) (2)長谷川，応用物理教育, 41(1), pp.17-22 (2017-6)

© 2018年 応用物理学会